

平成 24 年度 部誌・OB&OG 会報

— 現役と OB&OG の情報誌（架け橋） —



SHORINJIKEMPO

少林寺拳法

「更なる一歩」

—平成 26 年度 防衛大学校少林寺拳法部は創立 50 周年を迎えます—
平成 26 年 6 月 21 日記念行事開催予定
細部は 34 ページ以下をご覧ください

防衛大学校少林寺拳法部

No.39

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目次

	頁
部誌	
1 部長挨拶	2
2 監督挨拶	3
3 学生寄稿	4
4 平成24年度活動成果	10
5 平成24年度大会成績	13
6 平成25年度部員名簿	15
7 平成25年度年間活動計画	19
8 平成25年度顧問団	21

奥平会報

1 会長挨拶	24
2 平成24年度奥平会活動成果報告	25
3 平成24年度奥平会総会議事録	27
4 平成24年度奥平会決算報告書	28
5 平成25年度奥平会活動計画	29
6 平成25年度奥平会予算計画	31
7 期別連絡網	32
8 防衛大学校少林寺拳法部創立50周年記念行事について	33
9 連絡事項	33
10 少林寺拳法部自衛隊支部紹介	37
11 奥平会名誉会員名簿	39
12 奥平会員名簿	40

ご挨拶

部長 高橋 信明

合掌

国際状況の不安定さが顕在化する折り、最後の砦である自衛隊に対する国民からの信頼性がますます向上すると共に、多くの期待が寄せられていますが、防衛大学校少林寺拳法部 OB・OG 諸兄姉におかれましては、幾多の困難にも挫けることなく、職務に邁進していることと思います。58 期政権以下の現役学生諸君は新年度を迎え、新たなる気持ちで防衛大学校の学生生活を送り、そして日夜少林寺拳法の修行に励んでいることと思います。

昨年、平成 24 年度の成績は、なかなか厳しいものがありましたが、良好なる結果でありました。平成 24 年 5 月 4 日に日本武道館で行われました第 49 回少林寺拳法関東学生大会では、男子茶帯の部で第 1 位を、団体演武の部で第 6 位を獲得しました。同年 11 月 4 日に日本武道館で開催されました第 46 回少林寺拳法全日本学生大会におきましては、男子茶帯の部で第 1 位を、男子緑帯の部で第 3 位を、単独有段の部で第 5 位を、団体演武の部で第 2 位を獲得しました。同年 12 月 2 日に横浜国際プールにて開催されました少林寺拳法創始者宗道臣生誕 100 年記念 2012 年少林寺拳法全国大会 in かながわでは、男子三段の部で第 3 位を、団体演武の部で第 2 位を獲得しました。さらに横須賀三浦ブロック大会と神奈川県大会におきまして、数多くの優秀な成績を収めております。特筆事項としましては、全国大会の団体演武の部におきまして、八王子西道院には敗れたものの（総得点数としましては同点だったのですが、技術点の差により勝ちを譲りました）、全日本学生大会で第 1 位となった早稲田大学のチームに勝てたことが挙げられます。

平成 25 年 4 月末現在での部員は 4 学年 (58 期、12 名)、3 学年 (58 期、16 名)、2 学年 (59 期、22 名) に加えまして、新入部員 (61 期) が 27 名加わりましたので、総員 77 名となり、賑やかな雰囲気で行っております。現在、神田、頼富両先生のご指導の下、58 期政権 (主将：仲矢、副将：中野) を中心としまして、日々稽古に励んでおりますので、OB・OG 諸兄姉におかれましては、よりいっそうのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結手

監督挨拶

監督 渡邊 俊明(#44)

合掌

この度、防衛大学校少林寺拳法部監督を拝命いたしました渡邊と申します。母校で勤務する機会を得、さらには、学生時代に全精力を傾注し、その後の自衛官生活の支えとなる教を学ぶことのできた少林寺拳法部の監督に就くことは身に余る光栄であり、誠心誠意尽力したいと考えています。

さて、我が部の状況ですが、24年度は、57期 航空要員 盛満主将を核心として、関東学生大会、神奈川県大会、全日本学生大会等、各種大会で優秀な成績を収めました。さらには、開祖生誕 100 周年記念大会においては団体演武の模範演武を披露するなど、全国の少林寺拳法関係者にその威容を示し、防衛大学校少林寺拳法部の名声を高めることができました。そのような功績をふまえ、学校長から校友会褒賞をいただきました（少林寺拳法部、硬式テニス、銃剣道部、儀仗隊、バドミントンが受賞）。これも、57期政権を中心とした、前部員のたゆまぬ努力はもちろんのこと、OB・OG が築き上げた伝統及び有形無形のご支援の賜物であると強く感じているところであります。

25年度においては、58期 海上要員 仲矢主将を核心として24年度以上の成績を収めるべく、日々鍛錬に勤しんでいるところであります。今年度は、防衛大学校として、自衛隊中央観閲式への参加が控えており、全日本学生大会へ向けた練成に若干支障がでる可能性があるものの、早期から目標を確立し、練成の質を高めており、そのような係累は問題とせず必ず良い成果を獲得できるものと考えています。また、勧誘活動を強化して、昨年度に引き続き、20名以上の新入部員を獲得することができました。伝統を継承する者たちが入部することができ、さらなる飛躍へ向けて常に前進中であります。

来年度には、防衛大学校少林寺拳法部として、50周年記念祝賀会も計画されており、今年度の成果を胸を張って報告できればと考えています。勤務等、多忙なこととは存じますが、OB・OGの皆さまがたには、引き続き、ご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結手



「防衛大学校少林寺拳法部」

57期主将 盛満 昭彦

合掌

54期政権の背中を見てひたすら死に物狂いで上手くなろうとしていた日々から、ついに4年が経ち57期は卒業を目の前にしています。57期のメンバーは、共に苦しみ、共に励まし合い、共に喜びを感じこれまでにないほどの仲の良い期であったと思います。このような期であるからこそ昨年の全日本学生大会では56期3年係鈴木先輩の指揮のもと、最優秀賞を取ることが出来たのだと思います。57期政権になってからは、「碧血」を方針として抱えて運営してきました。碧血とは、真心と高い志を持った青年の生きる様を表す言葉です。私たち57期は成長には愛のある指導・教育や、上手になりたい・勝ちたいという気持ちから生まれる向上心が必要であると考えました。練習時は毎回目標を持たせ、最終的には全日本学生大会で、出場種目すべてにおいて最優秀をとることを目指しました。結果的に、男子段外組演武の部において最優秀賞、団体演武の部では優秀賞など多くの賞を取ることが出来ました。成長には目標が必要であり、指導には愛がこもっていなければお互いに信頼できず、信頼が無ければ結果はついてこないことを学びました。防大少林寺拳法部は、横の繋がりや縦の繋がりがとても強く互いに信頼し合っている部です。このような関係が防大を卒業しても続いているからこそ部自体が日々成長しているのだと実感しました。これからも、この関係を継続し特に同期とは互いに感謝し、支え合っていきたいと思います。

最後に、部長をはじめとする顧問の方々、今後とも防大少林寺拳法部をよろしく申し上げます。

結手



「防大少林寺拳法部との出会い」

57期副将 重松 翼

合掌

卒業を間近にし、この4年間を思い返すと最初に頭に浮かぶのは防大少林寺拳法部の日々です。長く感じられた部活動の日々も、引退を目の前にした時は、一瞬に感じられ、濃く充実した日々を送っていたのだと改めて気づかされます。

私が防大少林寺拳法部に入部したのは、当時、1学年前期の部屋長であった八島先輩をはじめ、多くの54期政権が所属していた24中隊の先輩方のおかげです。正直、少林寺拳法という武道をしてみたいという純粋な思いと、中隊で先輩方に守られるのではないかという不純な動機のもとで入部しました。それからは、54期政権の温かく熱い指導のもと、真剣に且つ楽しく部活に取り組むことができ、これが私たち57期の防大少林寺拳法部の原点となりました。

月日は流れ、2学年時のブラウン・ブラックスズンを乗り切り、3学年になり団演に打ち込み、関東学生大会で負け悔しさを胸に練習に励み、全日本学生大会で優勝できた日々は非常に思い出深いものがあります。そうしているうちに、57期が政権になり、いつの間にか教わる側から、教える側へと立場が変わっていました。副将兼3年係正として悩むことは多く、試行錯誤したものの、結果として58期を団演で優勝させるという目標を果たせず自分の責任を強く感じました。しかし、団演を通して58期がまとまり、成長した姿をみて今後の防大少林寺拳法部を任せていけると確信し、今後を期待して政権交代を迎えることができました。

私にとって、防大少林寺拳法部とは、強い絆を築く場であったと思っています。先生方、先輩方、後輩そして何より1年の頃から共に汗を流し、涙を流し、苦しみと喜びを分かち合った57期との絆は一生の宝物です。この目に見えない絆は、同じ目標へ向かって真剣に努力した者の間でのみ生まれるものだと信じています。これからも、防大少林寺拳法部が絆を築き強めていく場所であって欲しいです。そして、自分を成長させてくれたこの絆を大切にしていきたいと思います。自分に様々なことを教えてくださった先輩方、拙い指導に応えようと努力してくれた後輩、そして同期には本当に感謝しています。

最後になりましたが、部長をはじめ関係各位の方々には本当に4年間お世話になりました。これからも防大少林寺拳法部をよろしくお願いします。

結手



「あるべき姿」

58期主将 仲谷 光希

合掌

我が少林寺拳法部の58期政権が発足してもうすぐ半年弱になります。これまで、部のさらなる発展のため様々な取り組みをしてまいりました。目覚ましい発展ではありませんが残り半年間必ずやりきって見せるという思いで日々、試行錯誤しております。

さて、防衛大学校少林寺拳法部の確固たる目標は毎年開催される「全日本学生大会 団体演武の部」において最優秀に輝くことであります。少林寺拳法の種目は様々ですが、我々が入部の時からみんなが憧れ目指してきた団体演武での最優秀、この栄光を自らの世代でつかみ取ることこそ、我々が受け継いできた誇りであり各期の夢でもあります。個人に力に頼るのではない、仲間と力を合わせて挑み、各校が競い合う団体演武の舞台で日本一になることこそ、防衛大学校という場で切磋琢磨している我が部の目指すべき目標、守っていく伝統であります。今年度、この高い目標に挑む我々は58期政権が掲げる「目的・目標を正す」というスローガンのもと、日々の修練に励んでいます。目的なくして目標は立てられず、目標を見失えば、高いレベルのことを達成するのは不可能であります。

政権交代の時、私は部員へ同じことを伝えました。防衛大学校で少林寺拳法を修業する意義、また我々の意思を部員一同感じていてもらいたいです。58期政権がこの1年間でやり遂げたいこと、それは自らが定めた高いレベルの目標を自らの育てた拳士に達成してもらうことでもあります。昨年我々が挑んだ全日本学生大会での雪辱は忘れがたいものです。ともに悩み、苦しみ、励ましあいながら3年間を共にした同期とは、悔しさではなく喜びを共有してもらいたい、59期以下には後悔させたくありません。

最高の部活に求められるもの、それは人、元気、絆、規律、どこをとっても充実しており、みな活動の目的・目標を正しく定めていることではないでしょうか。防衛大学校校友会には心身の育成、人格の確立という明確な目的があります。我々は目的の達成のために少林寺拳法を学び、また少林寺拳法を通して仲間との絆を深め、その集大成として最高の成果を収めることを目指していきます。

最後になりましたが今後政権運営で戸惑う事が多々あると思います。その時はどうか温かいご支援、ご鞭撻をいただければ幸いです。今後とも防衛大学校少林寺拳法部をよろしくお願いします。

結手



「少林寺拳法と私」

58期副将 中野 勝貴

合掌

58期政権として、歴史ある防衛大学校少林寺拳法部の運営の一端を担い、早くも半年が経ちました。ステージの上で練習する新入部員を見て、初心者としてこの部の門戸を叩いた日がつい最近のように感じられ、歳月の短さを感じずにはられません。

三年前私は、部の目標の高さに憧れ、防衛大内有数の精強な校友会であるこの部に入りました。白帯の時は全くの初心者で、突き蹴りなど手足を動かすことに必死でした。茶帯になり突き蹴りに慣れてくると、今度は柔法に苦勞しました。黒帯を締め団演マットの上で練習するようになり、日本一を目指して毎日鍛錬しました。いままで厳しい経験をした事がない私にとって苦勞の連続でしたが、辛いときに励ましてくれる同期、鍛錬で身についた肉体的・精神的な強さ、それに伴う自信やバイタリティーなどたくさんの宝を得ることができました。

私は少林寺拳法部が数えきれないほどのトロフィーを持つに至った理由が、この鍛錬を通じて得るものにあると考えます。私が防衛大学校で一番自分の為になったのは、やはり少林寺拳法部の鍛錬で得たものです。私は少林寺拳法部の政権として部員を育てるにあたり、自分の持つ技術をすべて伝え日本一に導く事はもちろんのこと、鍛錬によって得る一生の糧になるような形無いものも学べるよう、部の伝統をもとに教育することを心がけています。

今、私は2年係として60期と修練を共にしています。当初は、教育の難しさに苦勞する日々でした。しかし、帯の色も変わり、明るく逞しく成長する60期を見て、喜びを感じます。しかし、関東学生大会では披露演武に至らず、悔いの残る結果となりました。この大会で得た教訓を生かし、以後の全日本及び世界大会にむけ、新たな決意のもと日本一また世界一を目指し努力します。

最後になりますが、部長、先生、監督、顧問、OB、OGの方々におかれましては、いつもお気を使っただき、感謝を述べる次第です。58期一同、輝かしい防衛大学校少林寺拳法部の伝統を築き、部の繁栄のために尽力する所在ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

結手

防大少林寺拳法の日々

59期 戸本 宗一郎

合掌

私が少林寺拳法部に入部したきっかけは、初めて見学に行った校友会が少林寺拳法部だったことです。さらにそこで見た団体演武に感動したからです。それが決め手となって少林寺拳法部に入部しました。

少林寺拳法部に入り、様々な人と出会うことができました。その中で私たちは、56期57期の方々の、厳しくも温かみのある指導を受けて成長してきました。私たち59期も今年は3学年。防大の代表として団演で戦う学年になりました。これまでの先輩方の団演を超える団演を作れるように、58期のもと、この少林寺拳法部であった大切な同期と一緒に、お世話になった先生方、先輩方のお礼として日本一になれるよう日々精進していきます。

結手

防大少林寺拳法部を歩んで

59期 中山 真利奈

合掌

なんとなく始めた少林寺が、目標のある少林寺になったのは防大少林寺拳法部に入部してからです。もともと体を強くするために高校一年生から始め、防大でも続けていこうと思い、なんとなく少林寺拳法部に入部しました。

道場でのほのぼのとした練習から一変して防大少林寺拳法部はランニングから始まり肉汁を絞り出すような練習で度肝を抜かれました。女子部員が少ない中、今までの気持ちで臨んでいたらつぶされると感じました。男子と並んで、ランニングや基本をするのは大変な事ではありますが、女子だからという事を理由にメニューを変えてもらったりしたくはありません。男子に負けないという気持ちで日々練習に臨んでいます。体格はちがっても、技の上達は練習量によって越えられます。しかしながら、私がいつも気を付けているのは、うぬぼれないことです。うまくなったからと言ってうぬぼれた行動をとらず、うぬぼれた自信を持たないように気を付けています。

少林寺拳法の修業を通じて「本当の強さ」を身につけ、持ち前の根性と負けず嫌いさで日々の練習に励み、全員が少林寺拳法をやってよかったと思えるような部活にしていきたいと思います。

結手

「人づくり」のための行

60期 中嶋 律也

合掌

武道といえば、力と力のぶつかり合いというイメージがある。通例武道は技や力の優劣を競うものである。しかし、たった一人の勝者となったところでいったい何になるのだろうか？勝ち負けに拘り過ぎるあまりに自分の実力を鼻にかけ、礼儀に欠ける者などざらである。

しかし、その点からすれば少林寺拳法は違う。常に礼儀を正し、有段・段外問わず分け隔てなく交流しあっている。それは単に乱捕りでの勝利のみを目的とするのではなく人としての成長を目的として、技術のみではなく読本や学科の試験による人としての在り方を説いているからに他ならない。加えて、乱捕り試合の孤独な勝者を作るのではなく、人と人同士の繋がりを築き、馴れ合いや烏合の衆ではない強固な結束を視野にいれている。

武道を修めるにあたり肉体の鍛錬で腕力をつけるだけでなく、強く優しい、礼儀をわきまえた人としての内面の充実をはかることも大切であると私は考える。それゆえ私にとって少林寺拳法とは、まさに理想的な武道の在り方を示している本当の意味での「武道」であるとともに、身体と精神のどちらかに偏ることなく両方をバランス良く成長させてくれる「人づくり」である。

結手

少林寺拳法と私

60期 橋本 大季

合掌

私にとって少林寺拳法とは、掛け替えのないもの、運命、人生そのものです。小学校5年生の時に父と親友の影響で少林寺拳法を始め、これまで約9年間続けてきました。その間、進路を決めるきっかけとなったのが少林寺拳法であり、中学校2年生の冬に道場長に自衛隊の高校を薦められました。

かくして私は15歳にして自立し、自衛官になることを決め、少林寺拳法部に入り、今に至ります。少林寺拳法部に出会わなければ、自衛隊に入ることはもちろん、ここ防衛大学校に入ることもありませんでした。今は防衛大学校少林寺拳法部の最大の目標である、日本一を取るべくただひたすら修練に励んでいます。この運命とも言える少林寺拳法を一生続け、今までたくさんの先生、先輩方にお世話になっている分、将来、少林寺拳法に恩返しをするべく、心身共に力をつけていきたいと思えます。

結手

平成24年度活動成果

日 時	行 事	場 所	成 績
5月4日	第49回関東学生大会	日本武道館	団体演武6位 男子茶帯1位
5月12日	新入生歓迎行事	海の公園	新入部員28名入部
5月19日	早慶防合同練習	防衛大学校	明治、青山、慶応理工も参加
6月10日	横須賀三浦ブロック大会	県立福祉大学	一般有段1位 一般段外1位
	杉本杯	法政大学	
6月17日	昇段審査	藤沢翔陵高校	
6月24日	神奈川県大会	横浜文化体育館	一般男子二段1位 一般男子三段1位 一般男子級拳士1位 団体演武1位
8月1～3日	夏合宿	防衛大学校	
8月19 ～21日	本山合宿	香川県多度津町	3学年が参加
10月8日	関東OB連合会30周年記念式典	東京プリンスホテル	
11月4日	第46回全日本学生大会	日本武道館	団体演武:2位 単独有段:5位 男子茶帯1位 男子白緑帯3位
11月10日	第61回開校記念祭(演武披露)	防衛大学校	
11月27日	政権交代	防衛大学校 総合体育館	
12月2日	全国大会	横浜国際プール	団体演武2位 三段以上3位
2月2日	奥平杯・OB総会・納会	防衛大学校	
2月3日	新春の集い	セントラルホテル	
3月23 ～25日	春合宿	防衛大学校	

※ 関東大会、全日本学生大会、全自衛隊大会の細部成績は次頁以降を参照。

平成24年度大会成績

関東大会（平成24年5月4日：日本武道館）

種目	成績	出場拳士
団体演武の部	6位	58期 栗林 正樹、中野 勝貴、前田 陽成 仲矢 光希、宇野 裕喜、森下 紀洋 古市 英人、西山 貴幸
三人掛の部	8位	57期 笠 慎之介、盛満 昭彦、重松 翼
男子茶帯の部	1位	60期 戸本 宗一郎、宮里 進斗

神奈川県大会（平成24年6月24日：横浜文化体育館）

種目	成績	出場拳士
団体演武の部	1位	58期 樋口 敏彦、栗林 正樹、中野 勝貴 仲矢 光希、宇野 裕喜、森下 紀洋 古市 英人、片岡 俊理
一般男子三段の部	1位	57期 盛満 昭彦、重松 翼
一般男子二段の部	1位	57期 則内 龍太郎 59期 平江 泰己
一般男子級拳士の部	1位	59期 山田 竜矢、森 拓海

全日本学生大会（平成24年11月4日：日本武道館）

種目	成績	出場拳士
団体演武の部	2位	57期 藤本 宗一郎 58期 栗林 正樹、仲矢 光希、宇野 裕喜 古市 英人、宮城 充宏 59期 平江 泰己、結城 翔悟
単独有段の部	5位	57期 藤本 宗一郎
単独茶帯の部	本選出場	59期 ブン・ティリナ
男子初段の部	本選出場	60期 岩井 雄馬、山下 亜院
男子茶帯の部	1位	59期 戸本 宗一郎、森 拓海
男子白緑帯の部	3位	60期 立花 祐太、金沢 克則
三人掛けの部	本選出場	57期 笠 慎之介、盛満 昭彦、重松 翼
運用法	本選出場	57期 重松 翼

全国大会（平成24年12月2日：横浜国際プール）

種目	成績	出場拳士
団体演武の部	2位	58期 栗林 正樹、中野 勝貴、前田 陽成 仲矢 光希、宇野 裕喜、森下 紀洋 古市 英人、西山 貴幸
一般男子三段の部	3位	57期 盛満 昭彦、重松 翼



【 神奈川県大会 平成24年6月24日 横浜文化体育館 】



【 第46回全日本学生大会 平成24年11月4日 日本武道館 】



【 奥平杯における現役・顧問団と奥平会員の面々 平成25年2月2日 】



【 納会における現役・顧問団と奥平会員の面々 平成25年2月2日 】

平成25年度部員名簿

(平成25年5月1日現在)

期 別	役 職	フリガナ 氏 名	小 隊	専 攻	要 員
57	OB	タナカ ショウタ 田中 翔太	431	機械	陸
58	主将	ナカヤ コウキ 仲矢 光希	242	通信	海
	副将 2年係正	ナカノ カツキ 中野 勝貴	221	電気電子	陸
	統制長 1年係補	マエダ ヨウセイ 前田 陽成	231	電気電子	空
	道場長 庶務 1年係補	モリシタ ノリヒロ 森下 紀洋	422	情報	海
	会計 3年係副	ヒグチ トシヒコ 樋口 敏彦	131	応化	海
	3年係正	クリバヤシ マサキ 栗 林 正樹	222	人間文化	陸
	1年係補	ナグモ ユウキ 南雲 祐樹	231	電気電子	陸
	主務 2年係補	ウノ ユウキ 宇野 裕喜	331	公共政策	陸
	本山 1年係正	フルイチ ヒデヒト 古市 英人	431	情報	空
	渉外・安全 2年係副	ミヤギ アツヒロ 宮城 充宏	441	建設環境	陸
	2年係補	カタオカ トシノリ 片岡 俊理	442	情報	陸
	庶務 3年係補	ニシヤマ タカユキ 西山 貴幸	442	機械	空
59		ヤマグチ ヒロシ 山口 滉司	112	情報	空
		ヤマダ マサツグ 山田 正嗣	122	機械システム	海

59		ナカヤマ マリナ 中山 真利奈	131	情報	海
		ヒラエ タイキ 平江 泰己	132	情報	陸
		キクイ ケンタ 菊井 健太	232	航空宇宙	海
		カワグチ ツヨシ 川口 剛史	232	航空宇宙	海
		トモト ソウイチロウ 戸本 宗一郎	241	機械	陸
		ヤマダ タツヤ 山田 竜矢	312	人間文化	陸
		アサイ リョウ 浅井 亮	331	通信	空
		ブン・ティリナ	331	通信	陸
		イグチ タカシ 井口 賢	332	人間文化	陸
		モリ タクミ 森 拓海	332	機能材料	陸
		コジ オ ケンゾウ 小椎尾 憲造	431	公共政策	陸
		コバヤシ タケミ 小林 岳海	431	地球海洋	陸
		ミヤサト シント 宮里 進斗	431	公共政策	海
	ユウキ ショウゴ 結城 翔悟	441	地球海洋	陸	
60		ヤマダ カズキ 山田 和輝	111	電気電子	陸
		ヒガシハラ カズキ 東原 和毅	122	公共政策	陸
		ヤマシタ アイン 山下 亜院	142	公共政策	陸
		ナカヤマ コウイチロウ 中山 孔一郎	222	応用化学	陸

60		タチバナ ユウ タ 立花 祐太	222	航空宇宙	空
		ヤマモト ケンイチロウ 山本 賢一郎	222	航空宇宙	陸
		キラ ケンジロウ 吉良 建次郎	232	応用化学	陸
		クリタ タツキ 栗田 樹	232	応用化学	空
		クマガイ ナオ キ 熊谷 直紀	311	応用物理	陸
		イワイ ユウ マ 岩井 雄馬	322	応用物理	陸
		オカモト ナオヤ 岡本 直也	322	応用物理	陸
		ヤバナ ジュンイチ 矢花 純一	331	人間文化	陸
		ハシモト ヒロキ 橋本 大季	332	建設環境	陸
		イノザキ ユウ ヤ 磯崎 雄哉	341	建設環境	海
		フジシロ ツカサ 藤代 司	342	応用物理	空
		マツモト コウヘイ 松本 光平	411	情報	陸
		ナカジマ リツヤ 中嶋 律也	422	人間文化	陸
		スガマ カズキ 須釜 一樹	431	機械システム	陸
		キタムラ ユウイチ 北村 友一	441	機械システム	陸
	タケダ カズ キ 武田 一希	441	人間文化	海	
	カナザワ ヨシノリ 金沢 克則	442	人間文化	陸	
61		モリアイ リュウノスケ 森合 隆之介	123	理工学	共通

61		ヴァン・ニコ・ハイ	133	理工学	共通
		オオウチ テツヤ 大内 哲也	133	理工学	共通
		スズキ ハルアキ 鈴木 喜晶	143	理工学	共通
		アイカワ ヒロウミ 相川 大海	223	人文・社会科学	共通
		ダイザ ヨシタカ 台座 義崇	223	人文・社会科学	共通
		タイラ ユキヒロ 平 行弘	223	人文・社会科学	共通
		フジサワ コウジロウ 藤澤 宏司郎	223	人文・社会科学	共通
		ヤマウチ タクヤ 山内 拓弥	223	人文・社会科学	共通
		カトウ コウスケ 加藤 晃輔	233	人文・社会科学	共通
		ショウヤ シュンスケ 庄谷 隼介	233	人文・社会科学	共通
		ニブ ダイスケ 二武 大将	233	人文・社会科学	共通
		ハヤシダ リョウ 林田 涼	233	人文・社会科学	共通
		マツシマ カズキ 松島 一輝	233	人文・社会科学	共通
		サクサベ マサタカ 作左部 正隆	313	理工学	共通
		ミズノ カツヒト 水野 勝仁	313	理工学	共通
		アマノ キワミ 天野 極	333	理工学	共通
	スドウ タクロウ 須藤 琢朗	333	理工学	共通	
	ワタナベ ケンタ 渡邊 健太	333	理工学	共通	

61	クドウ 工藤	マサト 将人	343	理工学	共通
	ナルミ 鳴海	コウセイ 洸成	413	理工学	共通
	ワタナベ 渡辺	ダイスケ 大輔	413	理工学	共通
	ヤベ 矢部	ヒロキ 宏樹	423	理工学	共通
	カワガタ 河形	ユウスケ 由祐	433	理工学	共通
	タケツグ 武次	ショウゴ 将吾	433	理工学	共通
	ニッタ 新田	ダイキ 大樹	433	理工学	共通
	マエダ 前田	マモル 護	433	理工学	共通
	ヤスダ 安田	タカマサ 貴政	433	理工学	共通



【 卒業式 平成25年3月17日 】

平成25年度年間活動計画（一部実績含む）

期 間	行 事	場 所	備 考
5月4日	第50回関東学生大会	日本武道館	団体演武3位 男子二段以上3位 茶帯単独演武3位
5月18日	新入部員歓迎行事	猿島	新入部員28名入部
5月26日	早稲田大学・慶應義塾 大学との合同練習 (早慶防)	防衛大学校	早稲田・慶応・慶応理工・青山 学院・昭和・日本女体大・上智・ 明治・一橋・津田塾計183名
6月2日	神奈川県大会	横浜文化体育館	団体演武、組演2組最優秀 組演5組優秀（男女×1含む）
6月23日	関東学生連盟 50周年祝賀会	東京プリンス ホテル	部長、奥平会長、藤原1佐、 学生代表参加
6月30日	昇段審査	県立福祉大学	
8月21～23日	夏合宿	防衛大学校	
8月24日	全国大会	大阪府	
8月25日	世界大会	大阪府	
8月30～9月4日	本山合宿	香川県多度津町	
11月17日(予定)	第47回全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武1位 多くの入賞
11月17日	第61回開校記念祭 (演武披露)	防衛大学校	
11月(時期未定)	政権交代	防衛大学校	
1月中	寒稽古	防衛大学校	
1月～2月上旬	奥平杯・OB総会・納会	防衛大学校	
2月16日	第39回全自衛隊大会	本 山	
3月下旬	春合宿	防衛大学校	

*なお、各月一回を基準に神田・頼富先生の「先生日」（旧：師範日）を予定



【 第 5 0 回少林寺拳法関東学生大会 平成 2 5 年 5 月 4 日 】



【 新入生歓迎会 於 猿島 平成 2 4 年 5 月 1 8 日 】

平成25年度顧問団

部長 教授 高橋信明

先生 (旧師範) 神田先生 (正範士7段) 頼富先生 (准範士6段)

監督 3陸佐 渡邊 俊明

顧問 教授 加藤 三千夫 藤原 修 (1陸佐) 准教授 濱田 秀 (2陸佐) 有賀 敦

西田 謙 齋藤 文一 助教 和田 篤 事務 伊藤 春代 渡辺 康子

3海佐 堤 允良 1陸尉 永田 忠義 2陸尉 宅島 宏幸



【平成25年度顧問団の面々】

(敬称等略) 前列左から：渡邊、伊藤、藤原、高橋部長、永田、堤、加藤、濱田元監督

後列左から：宅島、有賀、和田、齋藤、渡邊監督 (枠外：西田・島)

部外顧問 出口 1空佐 (#24 空：元主将・元全自支部長) 佐藤元空将補 (#24 空：元監督)

坂本元空将補 (#25 空：元監督)

相良 2海佐 (#26 海：元監督)

米山 2陸佐 (#27 陸：元監督・全自支部長)

吉武 1陸佐 (#31 陸：元主将)

山口 2空佐 (#32 空)

高取 2海佐 (#37 海：元監督)



【出口先輩：目黒】

【佐藤先輩：武専東京センター】

【坂本先輩】

【相良先輩：八戸】



【米山先輩：目黒】

【吉武先輩：市ヶ谷】

【山口先輩：府中】

【高取先輩：横須賀】

※ 部外顧問の方には、月一回の先生日や、防大近隣に来られた時にご指導をいただきます。

奥平会報



会長挨拶

奥平会会長 石渡 幹生

合掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年暮の衆議院選挙の結果による政権交代は、それまで我国が抱えていた言いやうのない不安、怒りを払拭し、政治、経済など各方面に明るい展望をもたらしてくれているような気がします。今年秋には2020年オリンピック開催地の決定が行われる予定であり、是非東京開催の決定により国威の発揚が一段と図られることを期待したいところであります。

さて、24年度の母校少林寺拳法部の活動につきましては、全国大会優秀賞を獲得するなど、校友会の中でも目覚しい活躍をする部として認知され続けているのは嬉しい限りであります。さらには新入部員も60期（現2年生）23名に続き、61期生は28名が入部している状況であり、80名近い大きな部となり頼もしいかぎりです。

25年度は仲矢主将率いる58期生が、更に成果を拡大してくれることを期待しております。

一方、25年度のOB&OG会（奥平会）の活動につきましては、総会の承認のもと、例年並の事業を計画・実施してまいります。本年度の特徴的なことは次のとおりです。なお、総会は、25名という多くの会員が参加して行われました。

- ① 部創立50周年の節目を迎える26年度に、記念事業を行うべく準備委員会を立ち上げ、準備を推進してまいります。取り敢えず、26年6月21日（土）を記念式典実施日として決定し、ホテル「グランドヒル市ヶ谷」を予約しましたので、会員皆様には出来るだけ多くご参加頂きますようお願いする次第です。
- ② 部誌につきましては、経費削減と負担軽減を図るため、昨年度からインターネットのホームページに掲載することを基本としておりますので、閲覧要領などをご確認頂き、活動等にご関心をもって戴ければ幸いです。
- ③ 会長の交代任期が迫り、今年度をもって下番させて頂く予定です。後任の会長によって50周年記念事業を行うことにしております。

会員並びにご家族皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

結 手

平成24年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 各種活動に対し、金銭的支援及び防大所属会員等による人的支援を実施致しました。
- (2) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣会員からの激励、金銭的な支援を実施致しました。
- (3) 菅野元部長（元副校長）離任時にいただいた経費（13万円）を使用して部旗を購入致しました。14000円不足しましたが、24年度計画予算（23年度総会で承認済：計画では13000円）で学生に支援致しました。
- (4) 所要に応じ、OBによる技術指導を実施致しました。
- (5) 予算に則り、顧問の必要経費の支援を致しました。

2 神奈川県連活動等

- (1) 月例の会議に参加（濱田）
- (2) 開祖生誕100周年神奈川県大会（6月24日）への参加（濱田・寺田）
- (3) 開祖生誕100周年全国大会（12月1・2日）への参加（濱田・渡邊）

3 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（月1回；渡邊・津森・寺田）
- (2) ブロック合同練習参加（寺田）
- (3) ブロック大会引率（6月10日）諸準備（6月9日）の実施（寺田・宅島）
- (4) 新年会（2月5日；寺田）等行事への参加
- (5) 三崎先生を偲ぶ会（於：多度津 5月12日）への参加（濱田）

4 学連・自衛隊連盟等行事への参加

- (1) 関東OB連合会（6月23日）への参加（米山・佐藤）
- (2) 関東OB連合創立30周年（10月8日）への参加
（石渡会長・山形・濱田・米山・山口・渡邊・脇田・宅島）
- (3) 杉本杯（6月10日：高取、房野）
- (4) 各大学50周年行事への参加
 - ア 中央大学（5月26日：佐藤）
 - イ 早稲田大学（6月16日：坂本）
 - ウ 国士舘大学（10月6日：米山）
 - エ 法政大学（11月18日：渡邊）

オ 東京大学（12月1日：米山）

※ 第38回全自衛隊大会（平成25年1月26日：都城）は不参加。

5 校内活動

- (1) 少林寺拳法部OB顧問会議の開催
（随時・転出入者があつたとき、5月・9月）
- (2) 政権・OB合同会議（1ヶ月に1回、必ず実施）
- (3) 職員少林寺拳法講習会の実施（週に1回基準；齋藤・和田顧問、現在2級）
- (4) ホームページの作成及び運営指導（行事等の機微に応じた広報活動を指導）

平成24年度奥平会決算報告書

平成24年度奥平会決算報告書（平成24年1月1日～同年12月31日）

1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	1,989,184
小計	1,989,184
56期OB会費	702,000
小計	702,000
総計	2,691,184

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	0
全日本学生大会	60,000
小計	110,000
学生支援金	
春合宿支援金	5,000
夏合宿支援金	10,000
新入生獲得支援金	60,000
小計	75,000
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	30,000
三浦ブロック関連	38,420
部誌発行関連	106,281
OB杯・慶弔事・雑事等	49,047
顧問支出補助(OB連合・記念行事・交遊費)	132,405
小計	354,153
総計	739,153

年度内差引額 ¥-37,153 円

2. 残高報告

¥1,952,031 円

上記内容に異状ありません。

平成24年度奥平会会計係

濱田 秀 (印)

3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員

山形 克己 (印)

平成24年度奥平会総会議事録

平成24年度奥平会総会は、平成25年2月2日(土)、奥平杯(12:00～16:00)から納会(19:00～21:00)にいたる一連の行事の中で実施(16:00～18:00)された。25名のOBの参加を得て、以下の項目に関し協議された。

1 平成24年度奥平会活動概要及び決算報告

本誌25～27頁、「平成24年度奥平会活動成果報告」および「平成24年度奥平会決算報告書」のとおり報告し、異議等なし。

2 平成25年度奥平会活動予定及び予算計画

本誌28～30頁、「平成25年度奥平会活動計画」および「平成25年度奥平会予算計画」のとおり案を提出し、異議等なし。なお、24年度後期異動に伴う職員の配置を活動予定に反映してある。

3 防大少林寺拳法部50周年記念行事について

本誌28頁、「平成25年度奥平会活動計画」1項(1)に示す案のほか、本誌頁、「」のとおり佐藤副会長から案が提示され、総会の承認を得た。

平成25年度奥平会活動計画

1 活動内容

- (1) 少林寺拳法部創立50周年事業準備
25年度、50周年記念行事実行組織を確立し、平成26年6月の実施へ向け準備をする。
 - ・記念祝賀会の実施
 - ・記念誌の作成・配布
 - ・DVDの作成・配布※ 細部後述。
- (2) 部活動支援
金銭的・人的支援を継続して実施するとともに、昨年度に引き続き少林寺拳法改革新体制移行に伴う指導を適切にする（各人毎の本山との連絡の励行・入金、休眠・考試との関連）。
- (3) 一般財団の実施する講習（道院長・支部長講習）に、参加する。
- (4) 横須賀・三浦ブロック活動への参加
近隣支部との合同練習（2ヶ月に1回）に積極的に参加（本山の目：一般財団とブロックとの交流を高める）する。
- (5) 関東学生OB連合会活動参加
懇親会を通じて交流ができた大学との合同練習機会を拡大する。
- (6) 校内活動
OBの部活動・練習参加に加え、OB自身の技術向上を図り、積極的に指導を実施する。

3 活動に当たっての重点事項

- (1) 新入部員獲得に関して指導をするとともに、金銭支援を行う。（金銭支援勧誘活動支援、HP作成等）
- (2) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。
特に将来的に防大に所在するOB顧問が増加する見込みも少ないことから、部外顧問制度を充実（学生時代の主将・副将等の優技者、任官後も練習を継続している者、全自支部の役員、元監督等、平成24年度には7名に依頼）して、学生の指導を有益なものにする。さらに、OB顧問以外の意欲のある教官を将来的に有段者に育てる等、顧問団の育成に着意する。
- (2) 防大勤務OBの増加を要望する
24年度は前期に渡邊3陸佐の配置を得たほか、図らずも後期異動で、藤原1

陸佐、渡邊 3 陸佐、堤 3 海佐、永田 1 陸尉の配置があった。今後も課外活動係、人事に対して働きかけ、要すれば陸・海・空各幕に働きかけて計画的、かつ継続的に OB 顧問を獲得する。この際、若い幹部の獲得に留意する。

- (4) 期連絡網については、メールの活用を含め、連絡体制の効率化・迅速化を図る。
- (5) 部誌のメール・ウェブ化 2 年度目として業務・経費の効率化を図る。

4 部務の運営について

(1) 監督、顧問業務

現在研究科学生（宅島：#53）を除き、職員は加藤先輩（#15）、濱田（#27）、藤原（#28）、渡邊（#44）、の 3 人である。当面渡邊会員が監督を実施するが、定期異動を予測し適任者があれば適宜交代を予定する。

学生の技術指導等は出口 1 佐（#24）佐藤先輩（#24）、坂本先輩（#25）、相良 2 佐（#26）、米山 2 佐（#27）、吉武 1 佐（#31）、高取 2 佐（#37）の部外顧問をはじめ、近隣からの支援をもらう。

(2) 幹事業務

ア 総括業務

濱田会員（副：渡邊会員）

イ 庶務業務

- ・三浦ブロッカー－渡邊会員（副：宅島会員）
- ・神奈川県連－濱田会員
- ・全自衛隊－米山会員
- ・学生 OB 連合－米山会員

ウ 会計業務

宅島会員

エ 広報業務

宅島会員

(3) 会計監査

山形会員（20 期：埼玉県在住：半澤先輩と交代）

5 その他

顧問への支出（平成 23 年度施行）については、25 年度も、道院長・支部長研修費用等を含め、引き続き実施（学校 OB 顧問としての要望）。但し平成 10～18 年度のような OB 資金が危機的な状況になった場合、運用を再検討する。

平成25年度奥平会予算計画

1 収入について

40期半ばの部員減少期、厳しいOB会費予算の状況を受けて12年度以来、一口3000円の特別会費を設定、お願いにこたえ、OB・OGの皆様の温かいご援助を受けてまいりました。これにより18年度には約2ヵ年分の活動費（約140万円）を上回る額を確保することができるようになり、当該年度をもって、特別会費の徴収を見合わせた予算となったことは33号（平成18年度版）でも申し述べたとおりです。

当面の間、25年度以降も卒業時の一時金による予算によりまかなうことになっております。因みに現在の部員数は、3学年12名、2学年16名、1学年23名となっており、25年度以降も終身OB会費による運営が可能です。今後も奥平会の本来の形式であった終OB会費（卒業時の学生手当の1/2）による運営を追求して行きます。

2 支出について

25年度は、24年度に引き続き各大学の50周年記念行事等が計画されていると考えられ、また、少林寺拳法一般財団化・改革事業3年目を迎えるなど、大きな事業が予定されているほか、OB顧問団必要経費を如何にするか、という件については検討する余地があります。

3 25年度予算計画について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥1,952,031	各種大会支援	¥160,000
小計	¥1,952,031	合宿支援	¥15,000
OB会費	¥648,000	学生活動支援	¥60,000
		技術向上支援	¥200,000
利息	¥0	奥平会運営費	¥250,000
その他	¥0	OB顧問団必要経費	¥100,000
小計	¥0		
総計	¥2,600,031	総計	¥785,000
残高（収入－支出）			¥1,815,031

4 来年度以降の見通し

奥平会の運営経費は年間約70万円を必要としております。既にご承知の通り、収入は当該年度の卒業生の終身OB会費（5.4万円/人）によって賅われております。当面は終身OB会費による運営が可能です（学生の平均部員数14名基準を満たす）。

期別連絡網

1 趣 旨

会員名簿を維持するために、期別ごとに会員の情報を掌握していただく趣旨です。

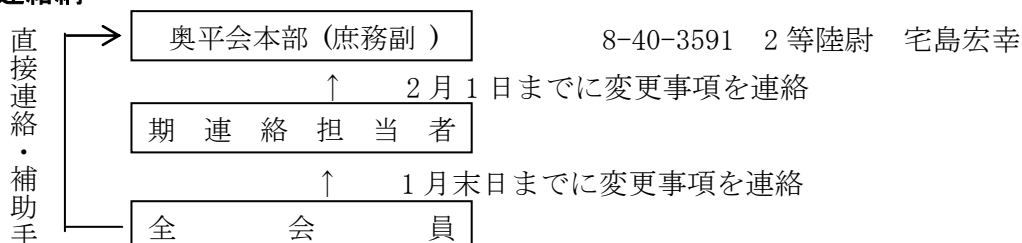
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおきます。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年1月末日までに同期生の連絡担当者へ連絡し、変更事項を告げます（直接防衛大学校庶務に連絡することも可能）。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年2月1日までに奥平会本部（防大庶務（今年度は副））に連絡する。期担当者の変更（交代・転出）についても防大庶務（副）に連絡します。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとします。この際同窓会本部との連携に留意します。

3 連絡担当者の指名

1年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとします（再任を妨げるものではありません）。

4 期連絡網



5 期連絡担当者 (25.6.1現在)

13	13A	調整中		29A	甲斐 正人	健軍	45A	八木 新	札幌	
14	14A	清水 重周	退職	30A	福田 洋司	島松	46A	菊池 裕紀	目黒	
15	15A	上杉 和壽	退職	31A	亀山 慎二	市ヶ谷	47A	矢野 健一	弘前	
16	16A	冨本 啓一	退職	32A	福重 毅尚	南恵庭	48A	対比地貴之	目黒	
17	17A	中尾 吉孝	退職	33N	町島 敏幸	市ヶ谷	49N	房野 賢一	防大	
18	18F	笠原 久	退職	34A	松永 康則	市ヶ谷	50N	鳥居 悠希	大湊	
19	19A	屋久 俊郎	退職	35A	戒田 重雄	市ヶ谷	51A	加藤 僚	青森	
20	20A	小林 実	退職	36A	藤岡 史生	市ヶ谷	52N	上田 佳裕	下総	
21	21A	湖崎 隆	練馬	37N	高取 哲郎	横須賀	53A	磯畑 良太	山口	
22	22A	松村 利宏	退職	38A	奇藤 浩	仙台	54A	坂口 雄幸	米子	
23	23A	日高 政広	神町	39A	中村公多朗	市ヶ谷	55A	尾上 真一	習志野	
24	24F	中館 利光	宇都宮	40A	上野 洋介	市ヶ谷	56A	佐藤 康平	前川原	
25	25N	内山 哲也	大湊	41A	後藤 仁志	習志野				

連絡事項

1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者が多くなっています。(次頁に記載) 本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気付きの点がございましたら期連絡担当者又は防大奥平会本部庶務まで御連絡ください。

2 部誌の電子化

本年度から部誌の電子化が実施され、Webでの提供になります。細部につきましては、郵送によりお知らせしたとおりです。

なお、インターネット環境がない方に対しては、従来どおりの紙面での郵送を継続いたしますので、その旨をご連絡ください。

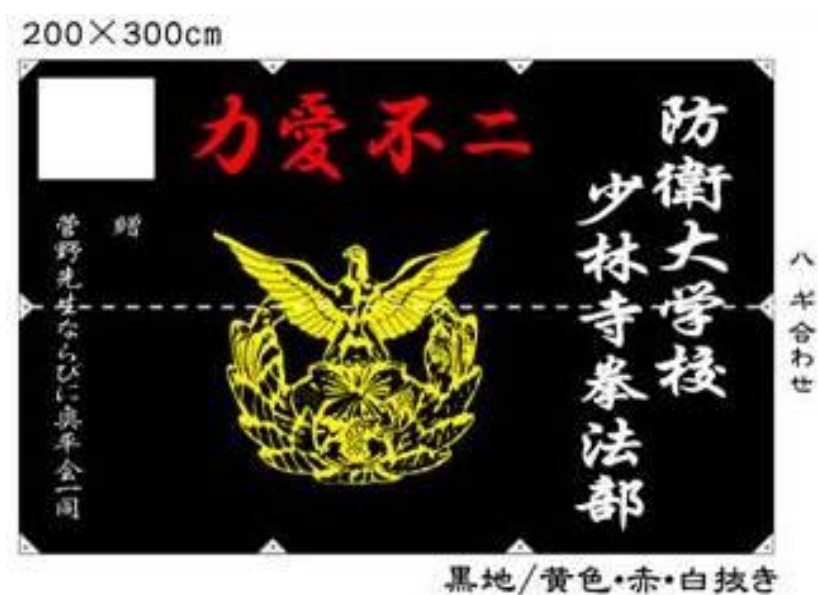
また、電子に伴い、Webに部誌をアップロードした際には、御提供していただいたメールアドレスに対して、ご連絡差し上げますので是非、ご覧になってください。

部誌掲載先

<http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/okuhira.html/bushi>

3 新しい部旗完成

6年間構想を温めてきたところですが、この度56期生(責任者:関戸・丹羽)により作成が完了いたしました。デザインにつきましては、以下のとおりです。名誉会員の菅野先生より、13万円を支援いただいております。この場をお借りして感謝申し上げます。



4 所属等不明者

期別	氏 名 (敬省略)
10	黒野 耐、清水 薫男、出田 弘一
14	清水 直正、斉藤 正精
15	古川 照久、安村 幸次、上杉 和壽
16	阿部 哲夫
17	久和 清幸
18	渡辺 義幸
19	園部 武典、三星 忠正
21	福岡 誠、村田 隆斉
22	吉岡 聖二
23	川添 一正
26	小野 長門、瀧沢 由則、中村 明弘、水野 伸彦、平野 勝、澤木 優輔
27	川村 治彦、馬場 政和、中里 巧、西山 利昭、蔵田 衛人、沢村 徹
28	永井 大介、吉田 正人、畦地 勇、日高 信行、西小路 謙、平島 一、神山 隆、米田 健二
29	水上 義仁、青柳 光、浅川 玉樹、
30	林 宏幸、中森 雅美
31	蝦名 伸治
32	川崎 誠二、平田 雄嗣、福元 昌二、後藤 幸英、松尾 研志
33	池田 誠喜、久永 智、半澤 新吾、高橋 真一、西窪 純、田中 勝也
34	竹内 博忠、篠原 康一、富山 修、丹羽 満良、河田 成治
36	岩村 伝法、
37	吉田 文二、富原 大治
38	城戸 利彰
39	長濱 誠、井上 嘉史、野本 肇、中村 公多朗、達下 裕教、鳥越 渉、久保 敦
40	朽木 誠
41	吉村 裕樹、佐久間 博、小林 貴、曾我辺 信久
42	清水辺 大、土本 邦彦
43	梅原 航、松口 俊三、関 大吾
44	八尋 幸一
47	村重 亮、本田 一郎
48	飯沢 直人、廣神 敏
49	郡山 伸衛

5 創立 50 周年行事（平成 26 年度）の準備について

防大少林寺拳法部は平成 26 年度、創立 50 周年を迎えます。この記念すべき節目にあたり記念行事を実施して、これまでの部の歴史を振り返りその実績を称えますとともに、今後の部の更なる発展を期したいと考えております。来年度（平成 25 年度）は、準備年度となる予定です。記念祝賀会、記念誌発刊等の構想を 24 年度総会（平成 25 年 2 月頃）で諮る予定です。ご意見、ご支援等の問い合わせがございましたら、本部（副会長・総括幹事）まで、ご一報いただきますようお願いいたします。

6 本部連絡先（副会長・総括幹事）

防衛学教育学群国防論教育室

2 等陸佐 濱田 秀

専用線 8-40-3853

局 線 046-841-3810（内 3853）

7 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務（副）まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績、知りうる範囲で会員様の慶弔等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。

全自衛隊支部の活動紹介

全自支部事務局

奥平会の会員におかれましては、防大卒業時に少林寺拳法の修行を止めてしまった方、勤務の都合で練習したくても止めざるを得なかった方、全自衛隊連盟の各支部で活動している方、一般の道院・支部に通って活動している方等、いろいろおられると思います。中には活動をしたくても、転属をする度に手続きの煩雑さから、活動を躊躇している方もおられると思います。

そのような状況の中で、自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の一支部として、全自衛隊支部が設立されたところです。

下記の内容を読んでいただければ、その活動状況はご理解いただけると思います。軽易に少林寺拳法の活動が可能になりましたので、奥平会会員の皆様も是非又、道衣の袖に腕を通していただきたく、この場をお借りして紹介させていただきます。

1 設立の趣旨

各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、もって自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものである。全自衛隊支部に所属する場合の具体的な例として、

- (1) 部長が転勤及び退職等により、止むなく部の廃止や休止せざるを得なくなった少林寺拳法部員が活動継続する場合
- (2) 拳士が転勤等により、少林寺拳法部がない勤務地に異動して活動継続する場合
- (3) 拳士が頻繁な転勤等により、その都度、各少林寺拳法部への転籍ができない場合
- (4) その他、拳士の活動継続が困難な場合

2 活動の状況

- (1) 支部長兼事務局長 : 米山多佳志 (防大27期: 元監督・2等陸佐)
- (2) 副支部長 : 出口 潔 (防大24期: 1等空佐)
- 監 事 : 山口直人 (防大32期: 2等空佐)
- (3) 支部員: 支部長以下19名(24. 4. 1現在)
(防大少林寺拳法部出身者: 9名)
- (4) 支部所在地: 防衛省防衛研究所 (原則として支部長の所属場所)
- (5) 支部員の活動場所 : 14カ所(24. 4. 1現在)
- (6) 会費: 年会費10,000円 (本部年会費5,000円、支部年会費5,000円)
 - 入部、転籍の際、別途、袖章代等1,000円が必要
 - 本部年会費は、各拳士が直接本部へ納入

3 入部及び活動要領

(1) 入 部

ア 入部資格

原則として、全国の自衛隊拳士を対象とするが、

(ア) 少林寺拳法部を有しない自衛隊駐屯地等において勤務する拳士及びその家族
(当面の間、有段者のみ)

(イ) 所属道院支部を有しない自衛隊OB拳士

イ 入部要領

入部を希望する者は、まず、入部希望の旨を支部長（米山）に連絡し承認を得た後、入部手続き要領の説明を受け、少林寺拳法のWeb上にて各自で手続きを行う。

(2) 修練場所

原則として、各駐屯地等の施設を活用した修練とする。但し、駐屯地等の近隣に位置する道院支部での修練は、道院支部等の所属長に当部の活動趣旨について理解を求め、参加許可を受けて行う。（近隣道院支部との兼籍も可能）

(3) 支部の事務処理(事務局)

陸自・米山多佳志を支部長兼ねて事務局長とし、事務局を防衛省防衛研究所に設置する。**(24. 4. 1以降、現在まで)**

原則として、事務局の所在地は米山拳士の所属する勤務地とするが、転属等により、その都度、所在地を変更する場合がある。

(4) 定期連絡

各部員は原則として毎月末、各自の活動状況について支部長（事務局気付）に定期報告する。また事務局は各部員の定期報告に基づき毎月の参座状況を掌握する。

また部員の転勤等によって活動場所が変更になった場合は、速やかに事務局に報告する。各拳士からの連絡手段：電話、メール又はFAX等で実施。

(5) 部 費

ア 支部費は、当面の間、年間5,000円／人とする。

(この他に各拳士の年度本部登録費5,000円が必要)

イ 部費は毎年3月末までに徴収する。

(6) 会報少林寺拳法の配布

原則として連盟本部から事務局に全部員分の会報が一括送付されるため、事務処理上年間数回に分け、数ヶ月分まとめて部員に配布する。

(7) その他

当面の間、部員については有段者のみとする。新入門者及び級拳士は、技術指導の面から全自連盟所属の各少林寺拳法部へ所属するようしてもらいたい。

4 入部及び問い合わせ先

〒153-8648

東京都目黒区中目黒2丁目2-1

防衛省防衛研究所戦史研究センター 2等陸佐 米山多佳志

T E L : 03-5721-7005 (内6680)

F A X : 03-3713-0350 (直通)

専用線 : 8-67-6680 (FAX6554)

携帯電話 : 090-1267-1402 (taka741852@ezweb.ne.jp)

E m a i l : pony741@yahoo.co.jp (自宅)

yoneyama-tk@nids.go.jp (職場)

奥平会名誉会員名簿

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
部長	高橋 信明	通信工学科 教授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南 3-16-16 TEL 045-784-2339
先生	神田 憲和	三多摩副道院長 准範士 7 段	〒164-0003 中野区東中野 2-14-7 TEL 03-3363-6275
先生	頼 富 英 武	少工校顧問 准範士 6 段	〒238-0315 横須賀市林 5-6-11 TEL 0468-56-7663
元部長	菅 野 等	元副校長	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6 丁目 34 番 1-411 TEL 045-786-5877

奥平会員名簿